

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 豊郷南 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	103人	算数	103人	理科	103人
第5学年	国語	93人	算数	94人	理科	96人

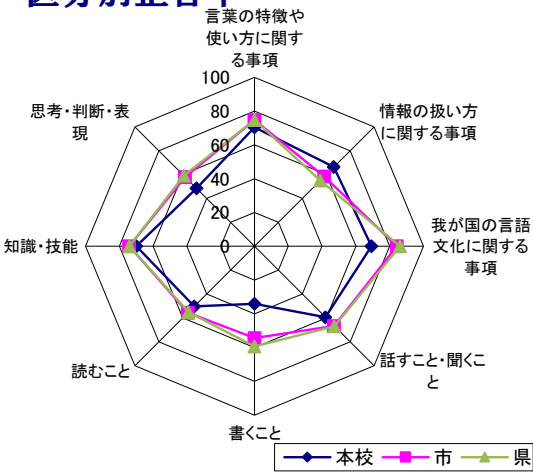
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.4	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	66.4	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	69.2	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	59.4	66.7	66.9
	書くこと	34.1	54.3	59.3
	読むこと	50.4	55.6	55.2
観点	知識・技能	69.9	74.1	74.0
	思考・判断・表現	48.6	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

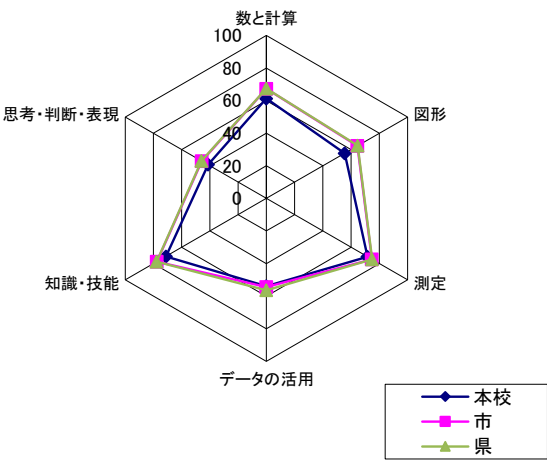
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・領域の正答率は、70.4%と県、市の正答率と同程度。 ●「第3学年に配当されている漢字を正しく書くことができる」問題は46.2%で市の正答率を10.1ポイント下回っている。 ●「ローマ字で表記されたものを正しく読むことができる」問題は49.0%で市の正答率を8.9ポイント下回っている。	・漢字練習と小テストを繰り返し行うとともに、朝の学習等を利用して既習漢字を使った文を書かせるなどし、定着を図る。またAIDリルを効果的に活用する。 ・授業の配当時間のほかにも、プリントやタイピング、ローマ字表を掲示するなどして、ローマ字に慣れ親しむようにする。
情報の扱い方にに関する事項	・領域の正答率は、66.4%と県、市の正答率より高い。 ○「国語辞典の使い方を理解することができる」問題は66.4%で市の正答率を7.9ポイント上回っている。	・わからない言葉があった際、教科にかかわらずすぐに国語辞典をひくことのできる環境を整え、国語辞典の使い方をより一層身に付けさせていく。
我が国の言語文化にに関する事項	・領域の正答率は、69.2%と県、市の正答率より低い。 ●「漢字のへんやつくりを理解することができる」問題は69.2%で市の正答率を15.1ポイント下回っている。	・新出漢字を学習する際に、へんやつくり注目させながら指導していく。また、漢字辞典の学習において、部首索引を使う活動を通し、部首への興味・関心をもたせていく。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は、59.4%と県、市の正答率より低い。 ●「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができる」問題は62.5%で市の正答率を11.8ポイント下回っている。	・授業において意見を出す際には、自分の考えが相手に伝わるよう理由を挙げて発言させるようにする。またその際、自信をもって発言できるよう、発表の仕方の型を示しておく。
書くこと	・領域の正答率は、34.1%と県、市の正答率と比べて低い。 ●「自分の考えを明確にして文章を書くことができる」問題は42.3%で市の正答率を22.5ポイント下回っている。 ●4つの条件を満たして「書くこと」の問題では、42.3%の児童が無回答である。	・考えを書く際にはひな形を提示し、定型文を基にして書く練習を行い、段階を追って文章を書く力を身に付けられるようにする。 ・すべての問題に解答できるように、時間配分を考えた問題の取り組み方を指導していく。
読むこと	・領域の正答率は、50.4%と県、市の正答率と同程度である。 ●「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることができる」問題は75.0%で市の正答率を10.9%下回っている。	・読書活動を充実させ、場面の様子について叙述を基に捉える機会を増やす。 ・授業において、段落の要約を行う活動を取り入れ、段落の内容を正確に捉えられるようにする。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.3	67.3	67.4
	図形	55.4	64.5	64.7
	測定	71.6	74.7	74.9
	データの活用	53.9	54.4	56.4
観点	知識・技能	71.2	77.6	77.8
	思考・判断・表現	41.4	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

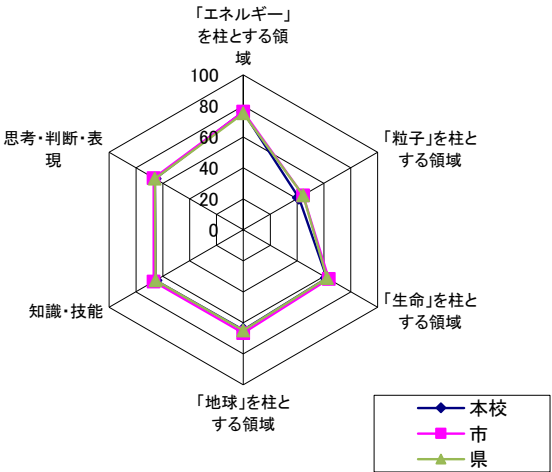
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、61.3%と市の正答率と比べて低い。 ●「分数の表す正しい大きさを答える。」問題は、44.2%で市の正答率を17.9ポイント下回っている。 ●「数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える。」問題は、26.0%で市の正答率を19.3ポイント下回っている。 ●「整数－小数第一位の計算をする。」問題は、34.6%で市の正答率を14.2ポイント下回っている。	・分数の概念の理解が不十分な児童が見られるので、4年での学習の際に、既習事項を振り返り、定着度を高めていく。 ・授業の中で「理由を説明する」「文章で説明する、書く」活動を積極的に取り入れていくことで、求められている答えを説明できる力を養っていく。
図形	・領域の正答率は、55.4%と市の正答率と比べてかなり低い。 ●「球の半径について正しいものを選ぶ。」問題は、52.9%で市の正答率を10.5ポイント下回っている。 ●「円の性質を考え、コンパスを使って正三角形が作図できることを説明する。」問題は、20.2%で市の正答率を13.7ポイント下回っている。	・丁寧に問題を読み取り、情報を図を用いて考えるような指導を続けていく。 ・授業の中で「理由を説明する」「文章で説明する、書く」活動を積極的に取り入れていくことで、求められている答えを説明できる力を養っていく。
測定	・領域の正答率は、71.6%と市の正答率と比べて同程度である。 ●「はかりの目盛りを読み取り、重さを答える。」問題は、44.2%で市の正答率を7.9ポイント下回っている。	・日頃から身近なものの重さに興味をもたせ、実際に量ってみる活動を取り入れていく。
データの活用	・領域の正答率は、53.9%と市の正答率と比べて同程度である。 ●「2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取り、正しいものを選ぶ」問題では、市の正答率と同程度であるが、19.2%と正答率が低い。	・数学的活動を通して、グラフを正しく読み取る力を身に付ける指導を続けていく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.1	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	41.4	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	62.2	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	64.6	66.6	64.9
観点	知識・技能	65.4	66.8	65.4
	思考・判断・表現	65.9	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・領域の正答率は、76.1%と県、市の正答率と同程度である。 ○「実験の結果として適切な記録を選ぶ」問題では、67.3%と市よりも6.5ポイント上回っている。 ●「送風機を風が強い順に並べ替える」問題では、56.7%と市よりも8.2ポイントとかなり低い結果であった。 ●「ゴールに車を止めるために必要だと推測されるゴムをのばす長さを選ぶ」問題では、52.9%と低い結果となっている。	・学習過程の中で、計画と予想を大切に授業づくりを行い、児童一人一人が実験内容をしっかりと把握できるようにしていく。 ・結果からわかることを自分の言葉で文章に書いたり、表現したりする場を積極的に設ける。
「粒子」を柱とする領域	・領域の正答率は、41.4%と県、市の正答率より少し下回っている。 ●「姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを選び、選んだ理由を答える」問題では、6.7%で、無回答も10.6%と低い結果であった。 ●「形を変えた粘土の重さについて正しいものを選ぶ」問題では、38.5%と市よりも6.4ポイント下回っている。	・実験計画を子どもたち自身で考える場を積極的に設けたり、友達と意見交換をする場を設けたりすることで、様々な実験方法について考えたり読み取る力を身に付けさせる。
「生命」を柱とする領域	・領域の正答率は、62.2%と県、市の正答率と同程度である。 ○「トンボの育ち方とモンシロチョウとカブトムシの育ち方の違いを記述できるかをみる」問題では、84.6%で市の正答率を5.5ポイント上回っている。 ●「記録カードを比べてわかることを選ぶ」問題では、74.0%と正答率が低い結果であった。 ●「正しい草丈の測り方を選ぶ」問題では、35.6%と市よりも6.4ポイント下回っている。	・結果をもとに比べながら、違いを見つけられるような授業展開や場面を設けたりする。 ・虫眼鏡の使い方などは、意味を理解させながら使い方を指導していく。
「地球」を柱とする領域	・領域の正答率は、64.6%と県、市の正答率と同程度である。 ○「温度計の使い方を選ぶ」問題では、77.9%と市よりも2.8ポイント上回っている。 ●太陽の位置の変化を方位で答える問題では、40.4%と市よりも5.3ポイント下回っている。	・学習過程の中、計画と予想を大切に授業づくりを行い、児童一人一人が実験内容をしっかりと把握できるようにしていく。 ・結果からわかることを自分の言葉で文章に書いたり、表現したりする場を積極的に設ける。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業を集中して受けている」の肯定的に答えた児童の割合は、95.2%である。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的に答えた児童の割合は、97.1%である。どの教科においても、意欲的に取り組む様子がみられる。友達との意見交換では、話をよく聞き、自分の考えを広げたり深めたりすることができている。さらに、グループでの話し合いを多く取り入れている成果が表れている。自分の考えに自信をもてるようにし、友達の前で自分の考えや意見を発表することに自信をもたせたい。

○「次の教科などの学習は、将来のために大切だと思いますか」の肯定的に答えた児童の割合は、算数は90%をこえている。また、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的割合も95.2%と高い。授業の様子を見ても課題解決のために真剣に取り組み、前向きな態度がうかがえる。

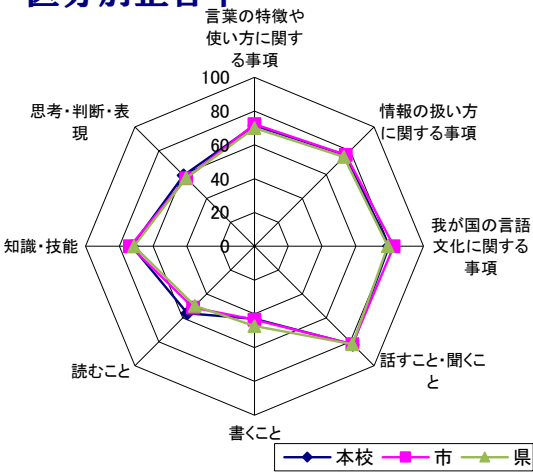
●「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」「家で学校の授業の復習をしている」の項目では、市と比べて12.8%下回っている。一方で、「家で、学校の宿題をしている」「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定的に答えた児童の割合がいずれも95%を上回っている。家庭学習の習慣が身に付いている児童が多いと考えられるが、自発的に学習している児童が少ない。自主学習等で、間違えた問題をやり直すなどの復習の仕方を示して、自分で考え見通しをもって計画的に学習する習慣を身に付けられるように声かけをしていきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表したりすることは得意である」の項目では、43.8%と市を10.5%下回っている。小グループでの話し合い活動から自信をもてるようにする。また、発表したり発言したりする雰囲気づくりに努めていきたい。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.5	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	76.3	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	79.6	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	82.3	81.9	82.0
	書くこと	43.0	43.5	47.2
観点	読むこと	56.2	51.4	49.8
	知識・技能	72.6	73.6	71.3
	思考・判断・表現	59.4	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

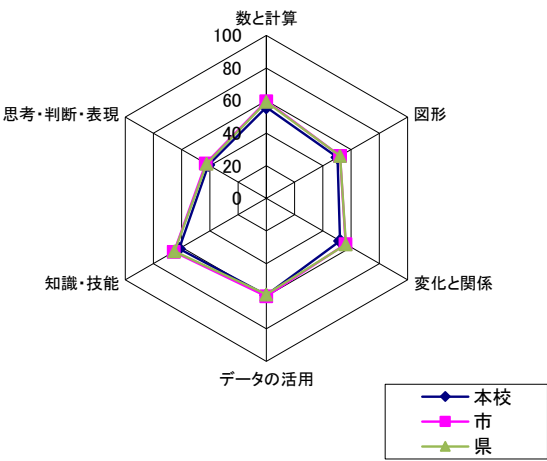
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・領域の正答率は、71.5%と県、市の正答率と同程度である。 ○「第4学年に配当されている漢字を正しく読むことができる」「漢字を正しく書くことができる」の校内正答率は市の正答率と同程度であり、漢字によって差がみられる。 ●「連用修飾語について理解している」問題は市の正答率と同じだが、18.3%と正答率が低い。	・漢字練習と小テストを繰り返し行うとともに、朝の学習等を利用して既習漢字を使った文を書かせるなどし、定着を図る。 ・文章の構成を確認したり、主語・述語・修飾語を意識して文章を書いたりすることを繰り返し行い、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	・領域の正答率は、76.3%と県、市の正答率と同程度である。 ○「漢字辞典の使い方を理解し、調べ方として適するものを選ぶ」問題は76.3%で市の正答率と同程度である。	・漢字辞典を活用した学習を授業の中で取り入れていく。
我が国の言語文化にに関する事項	・領域の正答率は、79.6%と市の正答率を2.9ポイント下回っている。 ●「文を読み、適することわざを選ぶ」問題は、79.6%で市の正答率を2.8ポイント下回っている。	・物語文や説明文などで、ことわざが載っていた場合、国語辞典を用いて意味を調べることで、ことわざに慣れ親しむようにする。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は、82.3%と県、市の正答率と同程度である。 ○「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかどうかをみる」問題は94.6%でよくできている。 ●「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかをみる」問題は72.0%で市の正答率を4.9ポイント下回っている。	・意見を述べる際には、考えを先に、理由や説明を後にするなどの工夫を意識して、話したり聞いたりするよう指導していく。
書くこと	・領域の正答率は、43.0%と市の正答率と同程度である。 ○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」問題は45.2%で市の正答率を4.4ポイント上回っている。 ●「内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている」問題は45.2%で市の正答率を3.6ポイント下回っている。	・アンケート結果などを読み取ったことをもとに、自分の考えを文章に書く機会を設ける。
読むこと	・領域の正答率は、56.2%と県、市の正答率を上回っている。 ○「登場人物の性格を説明にした文として、適するものを選ぶ」問題は58.1%で市の正答率を17.2ポイント上回っている。 ●「文章の要約を読み、空欄に適する語を書き抜く」問題は61.3%で市の正答率を2.9ポイント下回っている。	・説明文の授業では、叙述に沿って丁寧に読みとらせ、内容を理解し、要約できるようにキーワードを抑えるなどに指導していく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.0	59.7	59.2
	図形	50.4	52.1	52.1
	変化と関係	52.1	56.1	56.3
	データの活用	59.3	60.1	58.9
観点	知識・技能	61.9	65.5	65.1
	思考・判断・表現	41.2	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

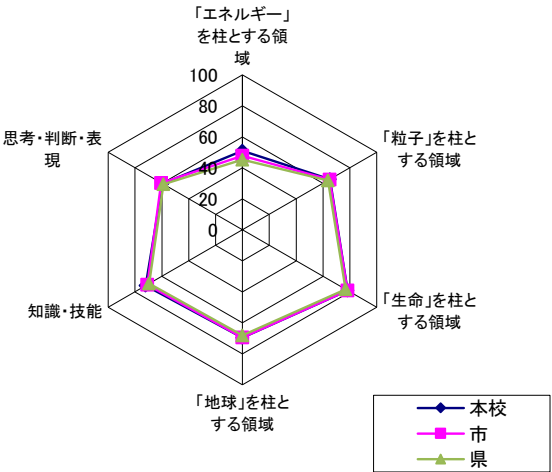
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、56.0%と県、市の正答率よりも低い。 ●「小数第一位÷整数＝小数第一位の計算」の問題では47.9%で市の正答率より16.4ポイント下回っており、21.3%の児童が無回答であった。 ○「式の意味を、言葉で説明する。」の問題では、53.2%で市の正答率より2.5ポイント下回っている。	・基本的な計算力を高めるために、朝の学習等を利用し指導していく。また、割り算の復習をし苦手意識をなくしていく。
図形	・領域の正答率は、50.4%と県、市の正答率よりも低い。 ○「180度より大きい角の大きさを求める。」の問題では、58.5%で市の正答率より5ポイント上回っている。 ●「ひし形の作図をする。」の問題では、58.5%で市の正答率より12.7ポイント下回っている。	・関連事項を学習する際に図形の定義や性質を再確認するとともに、道具に触れる時間を増やし、道具の扱い方に慣れさせる。
変化と関係	・領域の正答率は、52.1%と県、市の正答率よりも低い。 ●「伴って変わる2つの数量の関係について、表をたてに見てわかることを説明する。」の問題では17%で市の正答率より5.7ポイント下回っている。	・授業の中で「理由を説明する」「文章で説明する、書く」活動を積極的に取り入れていくことで、求められている答えを説明できる力を養っていく。
データの活用	・領域の正答率は、59.3%と県、市の正答率と同程度である。 ●「2つの折れ線グラフからわかることを答える。」の問題では76.6%で市の正答率より2.6ポイント下回っている。 ○「2つの折れ線グラフからわかることとして正しいものを選ぶ。」の問題では56.4%で市の正答率より0.8ポイント下回っている。	・数学的活動を通して、表とグラフの関係についての理解を深める指導を続けていく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	51.0	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	65.1	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	78.3	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	69.6	69.5	68.1
観点	知識・技能	72.1	70.8	69.5
	思考・判断・表現	59.5	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・領域の正答率は、51.0%と市の正答率と同程度である。 ○「電気のはたらき」の「簡易検流計の針のふれかたからわかることを選ぶ」問題では、31.3%で市の正答率を4.3ポイント上回っているが課題がある。	・簡易検流計などの実験器具を正しく扱えるよう個人やグループでの体験活動を充実させ、結果を正しく読み取れるようにする。
「粒子」を柱とする領域	・領域の正答率は、65.1%と県、市の正答率と同程度である。 ○「空気の温度と体積」の「ボールに空気を入れると弾む理由」を説明する問題では、70.8%と市の正答率を8.1ポイント上回っている。 ●「水のすがた」の「予想が正しい場合の実験結果」を選ぶ問題では、49%で市の正答率を6.5ポイント下回っている。 ●「水のあたたまり方」の「示温インクの色の変化」を選ぶ問題では、25%で市の正答率を7ポイント下回っている。 ●「空気のあたたまり方」の「あたためられた空気の動き方」を考える問題では、40.6%で市の正答率を8.6ポイント下回っている。	・実験の予想が正しかった場合に得られる実験結果が構想できるように実験の目的や方法を自分たちで考えていく授業展開を徹底する。また、縦軸や横軸、変化の様子などグラフの読み方を算数や社会の授業でも随時指導し、実験結果などをグラフに表現し活用できるようにする。 ・実験で学んだ知識と身近な事象や自然現象とを関連づけて考える機会を増やし、知識の定着を図るとともに自然現象等への興味を高める。
「生命」を柱とする領域	・領域の正答率は、78.3%と県、市の正答率と同程度である。 ○「春の生き物」の「春や夏のころの気温の様子や動物の様子」を選ぶ問題では、91.7%で市の正答率を7.7ポイント上回っている。 ●「春の生き物」の「サクラのようす」に関する問題では、55.2%で市の正答率を5.9ポイント下回っている。	・イラストからその後を予想する力が定着していないので、授業の中でイラストを的確に捉えて、なぜそうなるかなど考える機会を増やす。
「地球」を柱とする領域	・領域の正答率は、69.6%と、県、市の正答率と同程度である。 ●「地面を流れる水のようす」の「土の種類と水のしみこみ方に関する問題」では、52.1%で市の正答率を8.1ポイント下回っている。 ○「月や星の動き」の「月の動き方と動く向き」を選ぶ問題では、76%で市の正答率を7.6ポイント上回っている。	・資料を活用しないで答えている児童が多いと考えられることから、普段の授業から資料を基に何が考えられるか等、思考力を養っていく。 ・文章から聞かれていることのイメージができなかったため、なぜその事象が起きるのか想像する力を授業で養う必要がある。 ・学習したことと普段の生活の結びつけができていない。自然現象を再度確認し、学習につなげていく必要がある。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」と肯定的に答えた児童の割合は77.1%で、市と比べて9.6ポイント高い。また、「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」と肯定的に答えた児童の割合は75.0%で、市と比べて7.9ポイント高い。児童は、一人一台端末の使用に慣れ、自分で調べたこと、興味をもったことなど意欲的に調べることができる。

○「社会科の学習は好きですか。」の質問に対して肯定的に答えた児童の割合は68.8%で、市と比べて12.2ポイント高い。また、「歴史上の人物やできごとをあつかっているテレビを見たり、本を読んだりするのは好きだ。」と肯定的に答えた児童の割合は70.8%で、市と比べて13.8ポイント高い。児童は、社会科に対しての興味・関心が高く、授業中も意欲的に取り組んでいる。今後、ニュース、テレビなどで出た歴史上の人物について朝の会などで話題にし、歴史についての関心を高めていきたい。

○「学習して身に付いたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」と肯定的に答えた児童の割合は95.8%である。「国語、社会、算数の学習は、しょう来のために大切だと思いますか。」の質問に対して肯定的に答えた児童の割合は97.9%、96.9%、97.9%と高い。学習の振り返り活動を通して、学習内容が今後将来のために役立っていると感じていると思われる。振り返りの時間に書く内容をさらに充実させていきたい。

●「国語の学習は好きですか。」「算数の学習は好きですか。」の質問に対して、肯定的に答えた児童の割合は58.3%、50.0%で、市の平均に対して、6.2ポイント、13.6ポイント低い。上記項目と関連させて、楽しい授業になるよう授業内容・展開を工夫し、児童が授業を好きになれるよう指導していきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」と肯定的に答えた児童の割合は49.0%で、半数以上の児童が否定的に答えている。また「家の人としょう来のことについて話すことがある。」と肯定的に答えた児童の割合は63.5%で、市と比べて9.6ポイント低い。自分の考えをアウトプットすることに抵抗感があると考えられるため、小グループでの意見交換の機会を増やしたり、書いたことや調べたことなどワークシートを見ながら発表したりするなど手立てを工夫して、発表の機会を増やしていきたい。

宇都宮市立豊郷南小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的な学習を通して、読解力・表現力を高める国語科指導に取り組む	・読み取ったことと関連付けて、自分の意見や考えを書く。 ・相手の考えと自分の考えを比べながら聞く。 ・自分の考えを進んで表現し、相手のよさを取り入れながら、考えをまとめる。	・国語「書くこと」領域において市の平均と比べ4年生で20.1ポイント、5年生0.5ポイント低い。 ・質問紙調査「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」に対し、市の平均と比べ4年生は0.5ポイント、5年生は3.8ポイント上回っている。書くことを苦手としている割合が高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、問われたことに対して、自分の言葉で説明したり、自分の考えを条件に合うように表現したりする問題の中で、市の平均よりも5ポイント以上低いものがいくつかあった。	1人1人が自分の考えをもつことができるような学習の充実	自分の考えを相手に伝える活動を多く取り入れるようにし、伝える機会を増やすことで思考を促し主体的に考えられる力を高めていく。また、児童同士が互いに聞き合うことで、話しやすい雰囲気を作り出し、安心して多くの意見や多様な考えをもてるようにする。